令和６年度　第１回富塚中学校運営協議会

令和６年５月１０日
14:30～15:30
会議室

開会　開催要件（委員の過半数の出席）確認　　<司会：廣野、記録：岩邊>

１　学校長あいさつ　（中津川校長）

２　新規委員任命書・学校支援コーディネーターの委嘱書の交付

３　自己紹介

４　浜松市学校運営協議会規則確認　（牧野）

５　会長の選出・副会長の指名（会長指名）

６　議長の選出

７　令和５年度協議会自己評価と会議録の確認

８　熟議　＜議長：　　＞
〇学校運営の基本方針（校長）
〇ＴＳ活動について（藤原）
〇夢やらまいか事業（CS 加算分）に対する意見書について（教頭）

９　報告

10　連絡
（１）次回　令和６年９月２日（月）１３：３０～１５：００
〔参観 13:30～　　協議会 14:00～〕
（２）次回の熟議内容の確認
（３）さくらメールの登録について

閉会

第１回　学校運営協議会出席者

学校運営協議会委員

委員	島田篤志
委員	安間忠雄
委員	金原圭吾
委員	髙須博
委員	久保田智彦
委員	池谷定康
委員	松澤 久仁美(学校支援コーディネーター)
委員	行森 瑞恵(学校支援コーディネーター)
委員	田口美貴子(学校支援コーディネーター)

オブザーバー

市議会議員	関 イチロー
富塚協働センター	野嶋 京登

学校

校長	中津川 貴一
教頭	廣野幸恵
教務主任	深田 貴代
ＣＳ担当教職員	藤原 啓子
ＣＳディレクター	岩邊 三幸

浜松市教育委員会

教育総務課	牧野知子

令和６年度　浜松市立富塚中学校　学校経営構想

2024.4.1

１　国、社会の動向

○　予測困難で急激な変化の時代　⇦ Society 4.0（情報化社会）

Society 5.0：経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会

社会を生き抜くための資質・能力の育成

○　新学習指導要領

より良い学校教育を通じてより良い社会を創る　社会に開かれた教育課程

何を学ぶか　どのように学ぶか　何ができるようになるか

主体的・対話的で深い学び　３つの柱（評価の３観点）

○　令和の日本型学校教育

「個別最適な学び」と「協働的な学び」　GIGA スクール構想

２　浜松市の教育　　第３次浜松市教育総合計画　後期計画（R2~R6）

第４次
主体性
多様性
包摂性

○　教育理念　「未来創造への人づくり」「市民協働による人づくり」

○　目指す子供の姿　自分らしさを大切にする子供

夢と希望を持ち続ける子供

これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供

○　３つの重点　コミュニティスクール　キャリア教育　教育の情報化

これらを受けて、富塚中学校では

Ⅰ　校訓・学校教育目標・目指す学校像

１　校訓　「感謝　探究　実践」

（人の気持ちに気づく生徒　分かるまで考える生徒　ためらわずに行動する生徒）

２　学校教育目標

「自ら考え進んで実践し、共によりよく生きる生徒の育成」

３　目指す学校像

個性を認め合い、明るく温かくだれもが安心して生活できる学校

夢と希望、勇気を持ち、主体的に学び、共に成長できる学校

＜合言葉＞　「１ＵＰ」　「共によりよく生きる」

生徒訓：「富中プライド」

～当たり前のことを当たり前にやる（やってはならないことは絶対にやらない）～

Ⅱ　今年度の重点

1　授業の充実に向けて

・　教科指導の充実　　協働　　切磋琢磨

※教科部会の設定（含 技能教科）

※教科内授業公開　　※授業評価

・　「主体的に学ぶ生徒の育成」　　※個別最適・協働的

・　ＩＣＴの活用　主体的・対話的で深い学びの実現のために

・　基本的学習習慣の確立

2　心温まる関わり

・　心、体、命を大切に　　慈愛

・　生徒の思いを大切にした生徒指導（生徒の心に寄り添いながら）

×怒鳴る　アンガーマネジメント

⇒生徒の将来の幸せを考え、愛情をもってきちんと叱る

・　ほたる学級生徒と　　*※学校にとっての大きなポイント*

・　「生活の心得」の見直し

3　生徒主体の学習、部活、学校行事

・　富中だからこそできる活動　「生徒が主体となり、教師が支援」

4　キャリア教育の深化充実、キャリア教育による人づくり

・　自己の将来を見据えた実践、計画的継続的な努力　　CS との関わり

5　不登校、いじめの減少（抑制）

・　些細なことでも相談できる関係づくり、心の耕し

・　初期対応　　※迅速に、手厚く

・　「学校は楽しく、安心できる場所である。」　　教職員も楽しく！

6　時間外在校等時間の縮減

7　不祥事０・体罰０・不適切な言動０　　体に触れる行為

浜松市教職員・富中教職員としてのプライド

Ⅲ　重点の具体

１　学習指導　（授業改善の視点）

(1)　教科指導の充実

- 「主体的・対話的で深い学び」を目指した単元構想の工夫
- 一人１台のタブレットを活用した授業
  ⇒　効果的な活用場面の洗い出し
- 学びを振り返り、今後の学習（家庭学習を含む）につなげる指導
- 学習計画表を活用し、生徒が見通しを持ちつつ、学びの跡を残せる授業
- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業
- ファシリテーションを取り入れた、話合いの深まる授業
- 説明責任が果たせる「評価・評定の在り方」の構築(評価規準も含む)

☆　教科部会を中心とした教科研修の充実

☆　「思考力・判断力・表現力等」の育成

(2)　キャリア教育の充実

- 年間指導計画に基づいたキャリア教育の実践（特別活動、各教科等）
- ＳＤＧｓの学習や各学年の体験学習が社会参画につながる学習プログラム
- 「本物」「本職」「専門家」に関わる機会の設定
- 富中１UP パスポートの活用（振り返り・評価）と基礎的・汎用的能力の育成

☆　学んだことを自己の成長につなげる、自己の将来を見据えた取り組み

(3)　発達支援教育の充実

- 授業のユニバーサルデザイン「富中 UD」
- 個別課題、ＴＴ、習熟度、取り出し指導
- 発達支援ＣＤ、発達支援学級担任、発達支援指導員、ＳＣ等との連携

☆「ほたる学級」も「通常の学級」も　　生徒個々をよく見ること

２　生徒指導　キャリア教育を視点に

(1)　「社会を生き抜く力」を身に付けるための、４つの基礎的・汎用的能力の育成

「ふかめる力」	「みつめる力」	「つながる力」	「みとおす力」
↓	↓	↓	↓
「と りくむ力」	「み つめる力」	「つ ながる力」	「か なえる力」
（課題対応能力）	（自己理解･自己管理能力）	（人間関係形成･社会形成能力）	（キャリアプラニング能力）

(2)　自分づくりの意識啓発・自己肯定感の高揚

- 富中１UP パスポートの活用
- 目標設定 → 自ら考え、自ら実践 → 客観的自己評価力を高める場の設定
  「共によりよく生きる」視点・方向性への意識付け

(3)　教職員と生徒の人間関係づくりの構築　（本音で語り合う関係）

- 一人一人を認め大切にする教師の姿勢　　「困った。」と言える

(4)　互いを認め合い、思いやる心がある温かな集団づくり
- 年度当初に集団の人間関係構築の機会の設定
- 一人一人の居場所づくり（不適応生徒への支援・合理的配慮）
- ほたる学級、ＳＲへのより温かな支援（職員、生徒の関わり、校内での存在感）
- 不登校、いじめの減少（抑制）←アンテナ高く、即対応

☆　「自分と周りの人の心・体・命を大切にする」生徒及び教職員

☆　「ほたる学級生徒」や「学校に来づらくなっている生徒」への手厚い支援

だれもが今より少しでも輝けるように。

(5)　生徒がつくる学校　＜学級自慢→学年自慢→学校自慢＞
- 主体的な二大行事
- 縦割り活動の充実・発展
- 学級、学年における生徒の自主的実践的な活動
- 安心して生活できる学校、学級をつくるための仕組み（ルール）つくり

… 共によりよく生きる学校社会の構築

(6)　自己を鍛え、個性を磨く部活動
- 目標に向かい、粘り強く取り組む力の向上
- たくましい心身・礼儀・協力の心の醸成
- 浜松市中学校部活動運営方針の遵守
- 生徒が主体となる活動内容の工夫

3「ふるさと浜松」の活動（地域への愛と誇り、地域参画の意識啓発・態度育成）

(1)　地域資源「もの・こと・いのち」の活用

(2)　地域参画の意識啓発　ボランティア活動への積極的な参加
- 地域行事、奉仕活動へのボランティア参画
- 防災訓練への参加

4　コミュニティ・スクール

(1)　地域が見える学校
- 地域の「もの・こと・いのち」が見える 学び・行事・校内環境づくり
- 地域人財を活用した授業での連携(教員の専門性の向上)、ＣＳコーディネーターとの協働の推進

(2)　学校が見える地域
- 教育活動の場、地域参画、積極的な広報

Ⅳ　求める教職員像

1　教職員としての「生徒」の捉え

(1)　「生徒」は成長の途上にあることを意識するとともに、一個の人格として認められるべき存在である

・　心を込めて指導、称揚、説諭できる教職員
・　体罰、不適切な言動（暴言）は厳禁
・　率先垂範、切磋琢磨できる教職員

(2)　「生徒」は、感動と出会う中で成長するものである
・　熱い思いを語り、共に熱中し、泣き、笑い、感動を共有する教職員

(3)　「生徒」は「可能性の宝庫」である
・　生徒の成長を信じ、一人一人に夢や希望をもたせ、個性を伸ばそうとする教職員
・　生徒のための様々な工夫を楽しめる教職員

２　教職員集団

(1)　役割の自覚と経営参画の意識
・　自己の役割とその意義を自覚し、機能集団として活力を生み出す
・　様々な分掌で任された仕事への責任感と学校全体を動かしている意識

(2)　良さを認め合い、弱みを見せ合い、補い支え合える仲間としての教職員集団
・　得意を生かし合い苦手を補い合う→のりしろの拡張とフォロー体制の強化
・　支え合い共に仕事をする仲間を思いやる雰囲気を大切に
・　他者を尊重し、人を活かす

(3)　「働き方改革」を通して、より充実した教職生活を確立
・　時間外在校等時間の縮減（生徒下校後、１時間３０分以内に施錠）
・　多忙感を減らすことができる環境づくり
・　教職員育成指標をもとにキャリアステージを意識した研修、自己研鑽
・　年１度の記念日休暇の活用

Ⅴ　保護者・地域との連携

本校は、地域の支援・協力があってこそ、充実した学校生活が成り立っている。このことは、常に忘れてはならない。

また、生徒が活躍する場を提供してくれていることは、生徒の自信・自己有用感を高めるとともに、生徒自身が、地域住民に信頼される機会にもなっている。さらに、地域住民が学校を好意的に評価してくれることで、一層、学校に対して協力的になる（プラスのスパイラル）。

※ 保護者の協力姿勢を、如何に引き出すか
※ 保護者への対応の在り方。常に最悪のことを想定した対応に心掛ける
（共に子供を見守る、子供の幸せを願うという気持ちを表す）
※ 丁寧・誠実・明るく・親切に接する（不易なもの）

１　家庭訪問や三者面談と電話による連絡（*機を捉えた良い情報の提供*）の充実
２　学校公開、便り・ＨＰの充実による積極的な情報発信、さくら連絡網の活用
３　ＰＴＡ活動と連携した保護者への啓発
４　コミュニティ・スクールの充実・発展

2024　浜松市立富塚中学校　グランドデザイン

学校教育目標　　「富中でよかった！」

自ら考え進んで実践し、共によりよく生きる生徒の育成

校　訓
感謝･探究･実践

目指す学校像
○個性を認め合い、明るく温かく
だれもが安心して生活できる学校
○夢と希望、勇気を持ち、主体的に学び、共に成長できる学校

生徒訓
富中プライド

[合言葉]1UP
共によりよく生きる

とりくむ力
・課題発見、分析
・計画、処理・解決
・向上心、工夫・創造
課題対応能力

キャリア教育を核とした人づくり「自己の将来を」

みつめる力
・肯定的、客観的な自己理解
・未来への可能性、成長
・主体的な行動
自己理解･自己管理能力

【教科指導の充実】
・単元構想の工夫「主体的・対話的で深い学び」
・ＩＣＴ教育の推進、学習計画表の活用
・「主体的に学ぶ生徒の育成」　個別最適・協働的
【互いを認め合う温かな集団づくり】
・人間関係構築の機会の設定
・「自分と周りの人の心・体・命を大切にする」集団
・ほたる学級、SR 生徒への温かな支援
【生徒が主体となる活動】
・縦割り活動を基盤とした学校行事
・安心して生活できる学校・学級
・自己を鍛え、個性を磨く部活動　etc

発達支援教育の理念「富中ＵＤ」

コミュニティスクール「地域と共につくりあげる学校」

慈愛

かなえる力
・学ぶこと、働くことの意義
・将来への展望
・目標、計画的な努力
キャリアプランニング能力

信頼される教職員集団
・「真摯」心を込めて誠実に
・支えあい、思いやる
・不祥事、体罰、不適切な言動０

楽しく！

つながる力
・他者理解、伝える力
・他者と協力・協働
・社会参画、社会形成
人間関係形成･社会形成能力

令和６年度Ｔ.Ｓ.（総合的な学習の時間）全体計画

生徒の実態	学校教育目標	保護者・地域の願い
・落ち着いた態度で生活することができる。 ・親子共に学習への関心が高い。	自ら考え進んで実践し、共によりよく生きる生徒の育成	・社会人としての生活の基礎・基本を身に付け、地域に貢献できる人に育ってほしい。 「確かな学力」 「善悪の正しい判断」 「正しい礼儀作法」

地域の実態
・自治活動、社会教育活動に熱心な人が多い。 ・教育資源となる「もの・こと・いのち」に恵まれている。

Ｔ.Ｓ.（総合的な学習の時間）の目標
○自ら課題を設定し、探究活動を通して、学び方やものの考え方を身に付け、問題を解決することができる。 ○自分の考えを積極的に伝え合い、効果的な表現方法を工夫して発表することができる。

育てようとする資質や能力及び態度	
学習方法	・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する（SDGs 学習を含む）。 ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。 ・必要な情報を収集し、多角的に分析する。 ・相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する。
自分自身	・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する。 ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。
他者や社会	・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。 ・課題の解決に向けて、社会活動に参画する。

学　年	第１学年	第２学年	第３学年
単元名	**ふるさと浜松を見つめる**	**将来を見つめる**	**未来に向かって**
学習事項 （追究活動）	自分たちが暮らす浜松の特色や課題を知り、自分にできることを探る。	社会の中で働くことの意義を考え、自分の生き方を考える。	浜松の課題解決に参画し、ふるさとの明るい未来を展望する。

学習活動	指導方法	学習評価	指導体制
・各学年のテーマに則した探究的な学習。 ・個人テーマの設定→追究方法の検討→フィールドワーク（体験活動、情報収集）→学習のまとめ（情報整理、分析）→発表交流会→振り返り　の流れを１つの単元とし、取り組む。	・課題意識をもたせる指導の工夫（SDGs 学習）。 ・教科で身に付けた学力の活用 ・言語活動の充実	・レポート、ワークシート　スライド等、作品による評価 ・発表交流会、発言による評価 ・ポートフォリオを活用した評価 ・自己評価や相互評価、他者評価の導入 ・学期末、学年末の指導計画の評価と修正	・総合的な学習の時間主任を中心とした総合的な学習の時間部会での連絡、調整 ・学年の総合的な学習の時間担当、学年主任を中心に活動を計画し、実施する。 ・全職員による指導体制の確立

各教科との連携
・「表現する場面」や「言語表現する場面」等を各教科でも実施する。

地域との連携
・コミュニティースクールとして公共施設や地域人材との連携授業の実践 ・コーディネーターの支援協力 ・学校公開、ブログで情報発信

近隣の小学校との一貫指導
・富塚小、富塚西小と指導をつなぐカリキュラム作り

令和6年度　総合的な学習の時間【T.S.】3年間の構想　　松中31　浜松市立富塚中学校

『ふるさと浜松とそこに生きる自分の生き方を見つめ、未来の創造に参画しよう。』

月	1年 ふるさと浜松を見つめる	2年 将来を見つめる	3年 未来に向かって
4	・ **T.S.全体ガイダンス** ◎ SDGsガイダンス ・ 探求方法ガイダンス	**<T.S.3>職場体験学習** 社会と仕事を見つめ、自分の生き方を考えよう。 ・ ガイダンス ◎ SDGs学習	**<T.S.5>未来創造** **・参画学習** 浜松の課題解決に参画し、ふるさとの明るい未来を創造しよう。 ● 京都奈良体験学習　・ ガイダンス ・ 追究まとめ　◎ SDGs学習 ・ 発表交流準備　・ ウェビング
5	・ 訪問依頼・ｱﾎﾟｲﾝﾄ講座 ・ ウェビング講座 ・ テーマの立て方講座	● 飛騨高山体験学習　・ 個人追究テーマ設定 ・ 追究まとめ ・ 発表交流準備	◇ 発表交流会 ・ 振り返り
6	**<T.S.1>ふるさと浜松学習** ふるさと富塚の今を見つめ、私たちにできることを探ろう。 ・ ガイダンス　・出前講座	◇ 発表交流会 ◎ 未来授業 ・ 振り返り	◇「目覚めよ、社会参画力！」 （市内10団体が講師） 地域人材・市役所等　◇ 出前講座 ・ 個人追究テーマ設定 ・ 追究計画立案
7	・ 学習班作り ・ 班別追究テーマ設定	◎ マナー講座	・ 追究参画活動計画
8	・ 個人での追究活動	・ 個人での追究活動	・追究参画活動
9	・ 訪問場所設定	・ 訪問依頼・アポイント	・ 訪問以来・アポイントメント ・ 追究活動
10	・ 訪問準備	● 事前訪問	・ フィールドワーク ・ 学年発表交流準備 ◇ 学年交流会
11	● フィールドワーク ・ 訪問礼状作成 ・ 発表交流準備	● 職場体験(11/7～8) ・ 体験礼状作成 ・ 発表交流準備	■ 追加フィールドワーク ・ 全校発表会準備 ◇ 全校発表交流会
12	◇ 発表交流会（授業参観） ・ 振り返り ◎ 浜松まつり交流 **<T.S.2>飛騨高山体験学習** 飛騨高山の生活文化に触れ、ふるさと浜松を見つめ直そう。 ・ ガイダンス ・ 追究カテゴリーガイダンス	◇ 発表交流会（授業参観） ・ 振り返り **<T.S.4>** **京都奈良体験学習** 日本の伝統文化や地域を支えている人々の姿に触れ、自分の生き方を見つめよう。 ・ ガイダンス	・ 振り返り ・ 学んだことを発信 （新聞投稿等）
1	・ 個人追究テーマ設定 ・ 追究計画立案	・ ウェビング ・ 個人追究テーマ設定 ・ 追究計画立案	・ 3年間の振り返り ◇ 3年間のまとめ交流 ・ 学んだことを発信
2	◇ 中間発表会（ポスターセッション）	・ 訪問計画立案	・ 1UPパスポートまとめ
3	・ 1年間の振り返り （1UPパスポート）	・ 1年間の振り返り （1UPパスポート）	

◎ コミスク授業
● 体験活動（コーディネーターに協力を依頼する。）
◇ 発表交流会（意見交流を重視するポスターセッションで行う。）